

幼児が表現し、つながる楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫

～こころの触れ合うわらべうたや手遊びうたを通して～

糸満市立西崎幼稚園教諭 山里 章子

I テーマ設定の理由

近年、少子化・情報化・都市化などの社会の変化に伴い、子ども達が身近な自然に触れて遊ぶ機会が減少し「自然と人」「人と地域」とのつながりが希薄化している。それに伴い幼児の遊びも変化し、親子で触れ合う遊び、地域の子ども同士で遊ぶ機会が減少してきている。このことが自然とのかかわり、生命を尊重する力、豊かな感性と表現する力の育ちに大きく影響を及ぼしていると考え。親子での触れ合い遊びや地域の子ども同士での遊びの経験は、人への親しみをもつことができる。その中でも触れ合い遊びは、心地よい音色や言葉が繰り返し語られ、心と身体を安心させると考える。親子での触れ合い遊びや地域の子ども同士で遊ぶ時に生まれる様々な「思い」を自分なりに表現したり、周りの人に受け止められたりしながらさらに、信頼関係が深まると考えられる。また、自分の身体や存在を確認し大切にしようになると考える。幼児はこうした体験を生活や遊びの中で繰り返し体験し、教師や友達と共有し合うことで表現する意欲や感性を育てていくのである。

幼稚園教育要領「表現」の内容(1)には「生活の中で様々な音、色、形、手触り動きなどに気づかせたり、感じたりなどして楽しむ。」と示されている。新幼稚園教育要領においても幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の内容の改善・充実事項に「豊かな感性を養う際に、風の音や雨の音、身近にある草花の形や色などの自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること」とある。幼児は身近な自然環境と十分にかかわることで心を揺さぶられ感動を得る。その感動を友だちや教師と共有し、感じたことを様々な表現することによって豊かな感性は磨かれていくと考える。中でも、わらべうたや手遊びうたには、心地よい音色や自然を愛おしむ言葉と触れ合う遊びが多く、これらのことを踏まえるとわらべうたを保育に取り入れることは、幼児が表現し、つながる楽しさを味わうようになるために有効な手立てであると考え。

これまでの保育を振り返ると、幼児と向き合い触れ合う場が足りなかったのではないかと、幼児が生き生きと自己を表現するような環境構成の工夫が足りなかったのではないかと反省する。そこで、幼児と向き合いわらべうたや手遊びうたに親しみながら、幼児らしい表現を受け止めていく保育実践を通して、幼児が表現し、つながる楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫を探っていきたいと考え本テーマを設定した。

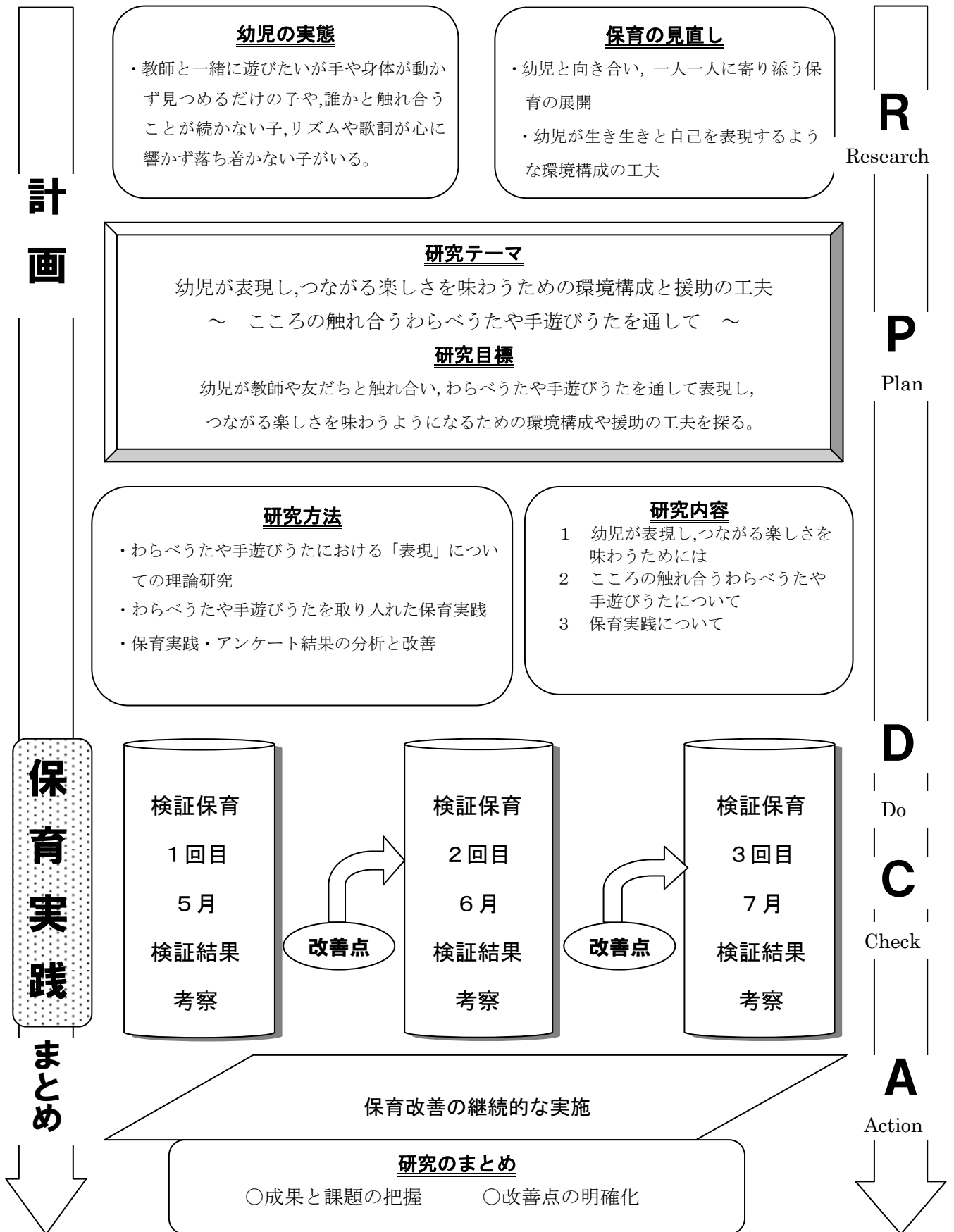
II 研究目標

幼児が教師や友だちと触れ合い、わらべうたや手遊びうたを通して表現し、つながる楽しさを味わうようになるための環境構成と援助の工夫を探る。

III 研究の方法

- 1 わらべうたや手遊びうたにおける「表現」についての理論研究
- 2 わらべうたや手遊びうたを取り入れた保育実践
- 3 保育実践・アンケート結果の分析と改善

IV 研究の構想図



V 研究内容

1 幼児が表現し、つながる楽しさを味わうためには

(1) 幼児が表現し、つながる楽しさを味わうためには

幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、日々の生活の中では大人からすると些細なことと思えるものでもすごいこと、大切なこととして受けとめていて、感じたことをそのまま素直に表現する。さらに、幼児は生活の中で様々なものに出会うと「なんだろう」「おもしろそう」「不思議だな」とその子なりの心の動きが見られる。この心の動きが、つぶやきであったり身体の動きであったりする。このように自分の心にあるものを素直に自分らしく表に現すことが表現であると考えられる。そのため、教師はこのような素朴な形の表現を、幼児らしい表現として受け止め、共感することが何より大切である。教師が受け止め共感することで、幼児は様々な表現を楽しむことができるようになっていくのである。そして教師と幼児の間にコミュニケーションが図られ信頼関係が一層確かなものになる。このことは、幼児同士が表現し、相互に受け止め合う場合についてもいえる。幼児は自分の素朴な表現が教師や他の幼児などから受けとめられる体験を重ねる中で、表現する喜びを感じ、表現への意欲が高まり、同時に友達とつながる楽しさを感じていくのである。

(2) 環境構成について

幼児が表現する楽しみや意欲を十分発揮するためには、幼児が幼稚園生活の中で喜んで表現する場面をとらえ、表現を豊かにする環境としての遊具や用具などを指導の見通しをもって準備し、他の幼児の表現に触れられるよう配慮をすることが大切であると考えられる。さらに、幼児が心に感じていることは、それを表現する姿を通して他の幼児にも伝わり、他の幼児の心に響き、幼児同士の中で広がっていく。教師は幼児がお互いの活動を見たり聞いたりして相手の表現を感じ取れるように、場や物の配置に配慮したり、教師も一緒にやってみたりして、相互に響き合う環境を工夫することが大切である。

(3) 教師の援助について

幼稚園教育要領解説の一般的な留意事項の中で、「幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様なかかわりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は理解者、共同作業員など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な援助を行うようにすること。」としている。幼児が表現し、つながる楽しさを味わうようになるために必要であると考えられる教師の援助を教師の役割から表1としてまとめた。

表1 幼児が表現し、つながる楽しさを味わうための教師の役割と援助の在り方



援助の役割	援助の在り方
心のよりどころ	<ul style="list-style-type: none">・ 幼児の気持ちをありのまま受け止め、一人一人に寄り添う。・ スキンシップを取り、親しみを持ってかかわる。・ 「たのしいね」「おもしろいね」「一緒にやってみよう」など受容的な声かけをする。
幼児のよき理解者	<ul style="list-style-type: none">・ 幼児一人一人のこれまでの生活や遊びの経験、これまでの遊びの展開を理解する。・ 幼児の動きや表現を認め、具体的に伝え褒める。・ 子どもの話に耳を傾け一人一人を尊重するようにする。
幼児との共同作業員	<ul style="list-style-type: none">・ 教師自身も一緒に遊びを楽しみ、幼児の思いに共感する。・ 教師も子どもから生まれた動きを同じように模倣する。(共振)
憧れを形成するモデルとして	<ul style="list-style-type: none">・ 教師が活動を楽しむようにする。(楽しむ姿は子どもをひきつける。)・ 遊びのルールや決まりを言葉や行動で具体的に示す。
遊びの援助者	<ul style="list-style-type: none">・ 援助が必要な時なのかを見極め、適切なかかわりをする。・ 動きの質を①時間性②力性③空間性などに注目して捉え、遊びのきっかけづくりをする。

2 こころの触れ合うわらべうたや手遊びうたについて

(1) 触れ合うということとは

触れ合いには、肌と肌との直接的な触れ合いと、心を通わせ合う心の触れ合いがあるととらえる。直接的な触れ合いは肌が触れることで人のぬくもりを感じ、安心感や親しみの気持ちを生み出すことができる。友定(2008)によると「心の触れ合いは、同じものを持ったり、同じ場所にいたり、同じ体験をするという体験の共有から心がつながり一体感を生み出す。」としている。わらべうたで遊ぶ時には、身体に触れる(手をつなぐなど)動作が頻繁に行われる。さらに同じ音色を通して、同じ言葉を口ずさむうちに、自然に他者と同じ気持ち・体験をすることになり、心の安らぎを得たり、他者への親近感を生み出すと考えられる。

(2) 手遊びうたとは

うたと動作が一体となった手遊び・指遊びは、古くから子どもたちの遊びの中で息づいている。うたに動作がついていることはリズムカルなものに反応する子どもたちの動きを補助し、子どものうたを楽しいものにしていて感じる。

(3) わらべうたとは

わらべうたとは、昔からうたい継がれてきた遊びである。長い時代を経て人から人へ伝えられてきたうたであり、そこには人々の暮らしや、思いが込められており、人間として生きるための大切なメッセージが込められている。メロディは音域が狭く、小節が短い。音の飛躍も少ないため子どもにとって無理なく歌うことができる。もう一つの大きな特徴は、動きと遊びが一体となっており遊びながら身体のいろいろな部分を統合して動かすことにより、身体機能の発達を高めることができる。「唱えうた」「遊びうた」「自然や動・植物に歌いかけるうた」「子守りうた」などがある。その時代の子供達の興味に合わせているため、その地域の馴染みのあるものに置きかえられたり、歌詞等が地域によって違っていたりする。沖縄のわらべうたの特徴としては、動植物の歌、自然や天体気象の歌が多い。また、リズムがおもしろく変化し、カチャーシーのリズムのように躍動的なリズム感の歌が多く、そのため今でもわらべうたが生き生きと感ぜられる。

(4) わらべうたがもたらす7つのメリット

平尾(2016)によるいくつかの子育て支援の中で「わらべ歌のもたらす7つのメリット」として、わらべうたのもたらす効果が述べられている。地域や家庭において自然に遊ばれ、うたい継がれてきたわらべうたの効果を再確認し、幼稚園でわらべうたに親しむ場合、教師の立場で「わらべうたがもたらす7つのメリット」を捉え表2にまとめた。

表2 「わらべうたがもたらす7つのメリット」

(1)こころが安定する	ゆったりとしたリズムで教師や友達と触れ合いながら過ごすことで、心が穏やかになり、こころの安定につながる。
(2)生活の基礎作りができる	わらべうたの中には、生活の基礎となるような動きや歌詞がたくさんあり、遊びの中で自然に生活の基礎を身に付けることができる。
(3)教師・友達とのきずなが深まる	わらべうたは触れ合いながら遊ぶので、子どもは親しみを感じ、愛されている実感を持つことができ、教師と幼児の間で親しみの気持ちが増す。
(4)感覚が育つ	手を握ったり、くすぐったり…といった皮膚刺激は、感覚機能の成長を促す。
(5)日本の心に触れられる	わらべうたには、昔ながらの生活や日本人の価値観などが随所に出てくる。歌詞を聴いたり歌うことで、日本の心に触れることができる。
(6)脳の回路を太くする	同じ歌詞とリズムを繰り返すわらべうたは数多くあり、この「繰り返し」には、脳の回路を太く推理力、思考力、読解力などの様々な能力を伸ばす働きがある。
(7)自然を愛する気持ちが育つ	自然の風物詩が登場するわらべうたを耳にすることで、自然と草花や動物たちを愛する気持ちが育つ。

VI 研究の実際

1 検証保育（1回目5月） 「わらべうたや手遊びうたで遊んでみよう！」

(1) 設定理由

入園から一ヶ月がたち、ほとんどの子ども達が園生活に慣れ安定してきたことで友達への関心も高まりつつある。一方で登園時に泣く子、集まり時に落ち着いて話を聞けない子が数人いる。そこで、集まりの時間にみんなで楽しめるような援助の工夫と環境構成を探ってみたいと思い設定した。

(2) 保育のねらい

教師や友達と手遊びうたやわらべうたに親しみ、楽しい時間を過ごす。

(3) 検証のねらい

- ① 幼児が手遊びうたやわらべうたに親しみ、楽しさを感じられるような環境構成の工夫をする。
- ② 幼児が安心して、参加し遊べるような援助の工夫をする。

(4) 検証の流れ

月 日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	わらべうたや手遊びうた 表現に関すること
5月22日(月)	・教師や友達と一緒に手遊びうたやわらべうたに親しむ。	・帰りの会の中で教師の姿を真似して手遊びをする。 ・友達同士では長く続かない。  (おてらのおしょうさん) わらべうた	○思わずやってみたくなるような楽しい雰囲気をつくる。 ★参加できずにいる子にはその気持ちを受けとめる ○子ども達がすぐに遊びたくなるような歌を教材として選ぶ。	・わらべうたと並行して季節の手遊びうたなどを織り交ぜる。 (お天気ジャンケン) ① ゆったりしたメロディ ② 自分の手を使うことでとりかかりやすい ③ 音の響きが子どもの喜びそうなもの
5月23日(火)	・教師と向かい合って手遊びうたを楽しむ。	・教師と一緒にじっくり遊ぶ。 	★一人一人の様子からこれまでの遊びの経験や友達関係をよみとる。 ★教師も一人一人とのかかわりを大切にして遊ぶ。 (幼児のよき理解者) ○教師と一緒に遊べるように時間を十分確保する。 (心のよりどころ)	その時々表情や手の動き、お話を交わしながら丁寧によみとる。 「触れ合う」ことを大切にして何度でも遊べるようにする。
5月30日(火)	・教師や友達と一緒に遊びを楽しむ中で、わらべうたに親しむ。	・子ども達が興味のある遊びを教師も一緒に楽しむ。   ・集まりに興味を持って参加する。 ・帰りの集まり時にわらべうたの手遊びをする。 (な～みな～み) わらべうた	○ゲームに必要なものや曲を用意する。 ○活動に集中しやすいように場を整える。 ★教師も活動を楽しみ子ども達と同じ遊びの経験をする。 (幼児との協同作業者) ○歌詞の内容が難しい所は、ペープサート等にして伝える。 ★うまく遊べない子に対しては無理強いせず一緒にかかわったり、同じ場にいながら、その子の思いに沿うようにする。 (心のよりどころ)	・スムーズな展開ができるようにあらかじめ予想しておく。 一緒に楽しむ経験が心の距離を縮めることができる。 ・ペープサートを動かし、物語のように歌いかけることで集中して歌を聴く姿が見られた。 友達の様子を見たり、わらべうたを聞いたりしながら、興味や関心がでてくるかもしれないのでその子の思いを受け止める。

(考察)

- ① 一人一人とのかかわりを大切にして遊ぶことで、安心して遊びに参加するようになってきた。
- ② 子ども達がわらべうたや手遊びうたに興味をもち口ずさむ姿が見られるようになってきた。このことは幼児が、教師や友達との触れ合いや音色に合わせることに楽しいと感じはじめたからだと考え。
- ③ 子ども達だけで遊びが続かないのは、友達との関係がまだ深まっていないからだと考え。わらべうたを通した触れ合い遊びを繰り返すことで、少しずつ関係を築いていけるのではないかと考え、関係を深めるようになるまでは教師が援助する必要があると考え。
- ④ わらべうたや手遊びうたの中でも子どもの興味に沿うことで、遊びへの期待感をもつようになってきた。

(改善点)

- ③ 友だちとのかかわりを生み出したり、一人一人がクラスの一員としての大切な存在であることが感じられるよう、つながる遊びを取り入れた遊びの工夫をしていく。
- ④ わらべうたに、興味をもちにくい幼児もいるので遊びを工夫しながら楽しさを伝えていく。

2 検証保育（2回目6月） 「クラスみんなであそぼう！」

(1) 設定理由

5月の検証保育では、一人一人とのかかわりを大切にして遊ぶこと、子ども達の興味や関心の在り方を探りながら、遊びをすすめていくことで“安心”して“楽しく”遊ぶことができた。しかし、普段の遊びや生活では気の合う友達とのかかわりだけで十分過ごさせていてクラスの中に遊んだことのない友達もいる。いつもと違う友達と触れ合い、かかわることで色々な気持ちを知ったり、自分と違う友達の存在を意識してほしいと感じる。そこで、わらべうた遊びを通して、クラス全体で触れ合い、つながる遊びをすることでお互いの距離がもっと近づき、自分はクラスの仲間なんだという嬉しさや友達の存在に気がついてほしいと考え、設定した。




(2) 保育のねらい




クラス全体で触れ合い遊びやゲームをしながら友達とつながる楽しさを味わう。


(3) 検証のねらい

- ① みんなで遊ぶことは楽しいと思えるような援助の工夫をする。
- ② わらべうたの楽しさを共有できるような遊びの工夫をする。

(4) 検証の流れ

月 日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫 ※太字は前回の改善点より	わらべうたや手遊びうた表現に関すること
6月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と一緒に触れ合い遊びを楽しむ。 ・“でんでらりゅう”のジャンケン遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・触れ合い遊び「くっついた」では絵本のイメージを共有し遊ぶ。 (くっついた) わらべうた  <ul style="list-style-type: none"> ・“でんでらりゅう”の歌に興味を持って歌う。 ・ジャンケン遊びを楽しみながらつながる経験を楽しむ。 (でんでらりゅうの遊び) わらべうた 	<ul style="list-style-type: none"> ○自由に動き回れるように場を確保する。(遊戯室) ★かけ声を「ひーらいた」の曲に載せることですぐに歌えるようにする。 ★触れ合うことをためらう子はその子の気持ちに寄り添うようにする。  <p>(心のよりどころ) (憧れを形成するモデル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子ども達と一緒に遊びをつくっていく。 ★身体を動かす楽しさを味わえるよう言葉をかける。 (遊びの援助者) 	<p>♪ “くーっついた くっついた おでことおでこが くっついた ピタッ”♪</p> <p>◎絵本「くっついた」</p> <p>「せんせいとくっつきこしよう！」</p> <p>「はじめはみんなチビッコりゅうだよ！小さくなって冒険にいこう！」</p> <p>・手遊びのわらべ歌からつながるジャンケン遊びへ遊びを工夫する。</p>

<p>6月15日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とつながり、イメージして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで遊びをすすめる。 ・自分達でくっきたい場所を伝えて遊ぶ。 ・手をつなぎ“波”をイメージして遊ぶ。  <p>(な～みな～み) わらべうた</p>	<p>★遊びに変化をもたせ、子ども達の声で遊びをすすめさせる。</p> <p>★○みんなで歌い、教師も一緒に遊び、楽しさを共感する。(幼児との共同作業者)</p> <p>★イメージした波はどんな波だったのか言葉や身体で伝え合うようにする。</p> 	<p>①くつつく箇所を子ども達に決めさせたことで子ども達から意見が飛び交った。</p> <p>ほった</p>  <p>②波を表現する。</p> <p>ゆっくりの波だよ！ザブーン</p>
-----------------	--	--	--	---

<p>6月16日(金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“でんでらりゅう”をイメージして遊ぶ。(じゃんけんあそび)(ダンス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージした“でんでらりゅう”について自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりする。  <ul style="list-style-type: none"> ・“でんでらりゅう”のジャンケン遊びを楽しむ。 ・じゃんけんをしないでずっと親になりたがる子もいる。 ・みんなで楽しく遊ぶためにはどうすれば良いか考える。 ・りゅうのダンスを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★○自分の思いが表せるように、時間や雰囲気を確認する。 ○“でんでらりゅう”のイラストを掲示する。 ★どんなイメージも一人一人が考えた大切な考えであることを伝え認め合うようにする。(幼児のよき理解者) ★友達と楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか遊び方を話し合う。(憧れを形成するモデル) ★個々の表現を具体的な言葉で褒め、認める。 	<p>龍のイメージがわきやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いをみんなに伝えられるようにする。 ・子ども達と一緒に考えながら言葉や行動で具体的に示す。
-----------------	---	--	---	---



(考察)

- ① 動きが引き出される絵本(◎)を導入することで、心と身体がほぐれ安心して触れ合う姿が見られた。
- ② わらべうたの音色に合わせることで、友達同士で気持ちよく触れ合う姿が見られた。
- ③ 手を合わせたり、肩に手をおいたり触れ合うことで心がつながる楽しさを感じ、自分はクラスの仲間なんだという嬉しさや友達の存在に気がつくことができたと考えた。
- ④ 子ども達が遊びを振り返り、遊び方について、話し合うことで表情豊かに遊ぶようになってきた。
- ⑤ 色々なイメージ遊びを通して、他児の良さに気づき、他児の考えを受け入れて遊べるようになってきている。
- ⑥ “でんでらりゅう”のダンスでは教師の踊りを真似して楽しむ姿が見られたが、それぞれのイメージした自分らしい表現は見られなかった。

(改善点)

- ③ 友達と触れ合い、つながる楽しさが感じられるような環境構成を工夫する。
- ⑥ 一人一人の心の動きをよみとり、個々に応じた援助をすることで安心して自分らしさを発揮して遊ぶようにする。
- ⑥ 自分の気持ちを表せるようなきっかけ作りが必要である。
- ⑥ 自分らしい表現が子ども達の動きから表れるように、具体的な言葉で認めるようにする。
- ⑥ 戸外で感じる季節や動植物の生き生きとした様子が室内でも感じられるような環境構成の工夫をする。

〈遊びの発展と環境の再構成〉

<p>紙芝居や絵本に親しむ</p> 	<p>お面作り</p> 	<p>龍の絵を描く(絵の具)</p> 	<p>龍の絵を描く(マジック)</p> 
---	---	---	---

3 検証保育（3回目7月）「わらべうたってたのしいよ！」～友達に教えてあげよう！！～

(1) 設定理由

5月からわらべうたや手遊びうたを通した触れ合い遊びを取り入れてきたことで、幼児は朝や帰りの集まりを楽しみにするようになってきた。また、6月の検証保育では、友達と身体をくっつけたり、うたを歌ったりしながら遊ぶことでクラスの仲間と一緒に過ごす楽しさや自分と友達の存在を感じられるようになってきた。

そこで今回は、他のクラスの友達との「交流会」を提案することで、幼児が「教えてあげる」「楽しさが伝わる」「思いがつながる」等の経験を通して、表現し、つながる楽しさを味わえるような環境構成や援助の工夫を探りたいと考え設定した。

(2) 保育のねらい

- ・わらべうた遊びを通して触れ合い、友達とつながる楽しさを味わう。
- ・「交流会」を楽しみにし、自分らしく表現し遊びの楽しさが伝わるようにする。

(3) 検証のねらい

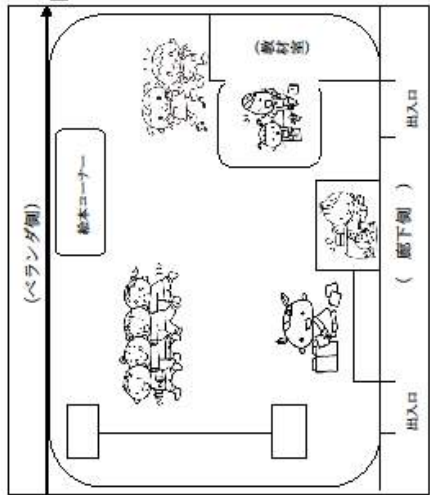
- ① 幼児がわらべうた遊びに親しむ中で友達とつながる楽しさを味わえるよう、一人一人の内面を理解し、心の動きに沿った遊びの展開をする。
- ② 友達とイメージを共有しながら表現する楽しさが味わえるような環境構成の工夫をする。

(4) 本時までの検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助 ※太字は前回の改善点	わらべうたや手遊びうた 表現に関すること
7月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の遊びを楽しみながら「交流会」を楽しみにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師から遊び方を教えてもらいながら遊びを楽しむ。 (あさがおこりゃこりゃ) 手遊び (まわせまわせ) わらべうた ・遊びの選択や仲間づくりに不安を感じ、遊びに踏み出せない子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれが十分遊べるように遊びの場を確保する。 ○触れ合いが持てるような集団遊びを取り入れる。 ★グループ活動に戸惑う子には教師が仲立ちとなり思いをつないでいく。 ○朝顔の開花のイメージが広がるように、絵本や折り紙遊び、壁面など整える。 ○戸外で見られる季節の花を取り入れる。 	<p>“いったーあんまーまーかいが”の曲に合わせて輪になって座り、ひとつのボールを渡していくゲームを取り入れる。</p> 
7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊んだり発表することを楽しむ。 ・自分達の言葉や動きを考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に、ルールを確認しながらみんなで「まわせまわせ」をして遊ぶ。 (まわせまわせ) わらべうた  <p>誰が走る?</p> <p>わからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★○自分達の遊びが楽しくなるように興味を持てるように自分で遊び方を考えていくようにする。 ★幼児の思いを読み取り、友達との触れ合いが楽しめるようにする。 	<p>「まわせまわせ」ゲームのルール 曲が止まった時ボールを持った人のグループが円の周りを走る。</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持った人だけに意識がいき、走りにくい。 ・走るグループが分からない。
7月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・「交流会」を楽しみにしながら友達と遊んだり発表することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「交流会」を楽しみにし、意欲的に遊びに取り組む。 (赤田首里殿内) わらべうた 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びに必要な小道具を子ども達と考え、必要に応じてアイディアをだしたりする。 (遊びの援助者)  <p>てぬぐい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージが膨らむ小道具を一緒に考えた。 ・波→水色手ぬぐい 手ぬぐいをゆらす ・龍→お面をかぶる ・赤田首里殿内→ 花の髪飾り

4 検証保育（本時）の展開 (1) 本時の日案

日 案		糸洲市立西崎幼稚園 平成29年7月14日(金) たまん組 男児11名 女児16名 計27名 担任 山重章子		
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・せみなどの生きものに興味をもち、探す姿が見られる。 ・友達と探つてもうら子などの姿が見られる。 ・自分で好きな遊びを見つけて取り囲み、遊びや場を通して友達と関わる姿が見られる。 ・「交流会」を楽しみにし、楽しい合言葉で繰り返して遊ぶ姿が見られる。 ・畑に植えた夏野菜の世話を通して生長に気づき、収穫を楽しみに出語をする姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と触れ合ったりかかわったりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達とわらわらつたや手遊びをして楽しむ。 ・「交流会」でどのように伝えてあげたらいいか工夫する。 ・自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりしながら遊ぶ。 ○動物の生息地を知り大切にしようとする。 ・生き物に親しみ、思い方など考える 	<ul style="list-style-type: none"> ☆使用した道具や道具を元の場所に片づける ☆手洗い、うがいをする。 ☆友達の名前に「さん」をつけて呼ぶ。 *道具（虫取り網等）・用具の安全で正しい使い方を示す。 *水分補給の重要性を伝える。 	
時間	<p>予想される幼児の遊びの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 8:15 <ul style="list-style-type: none"> ○遊樂する。 ・持ち物を片付け、体育着に着替える。 ・シールをはく。 8:45 <ul style="list-style-type: none"> ・好きな室内遊びをする。 	<p>★教師の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ひとりひとりと挨拶を交わし、今朝の様子、体調を把握できるようにする。 ☆自分から挨拶ができる子や聴きながら、気持ちのいい一日のスタートになるよう雰囲気作りを心掛ける。 ☆子ども達と一緒に栽培物への水やりや雑草抜きをしながら、収穫も楽しめるようにする。 ◎野菜に関する本や昆虫に関する図鑑などを用意して調べたり確認したりできるようにする。 	<p>◎環境構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆子ども達と一緒で歌った遊びの中、触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<p>◎育てたい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> わらわらうたであそぼう！ みんなであそぼう！ じゃんけんあそび 一緒にあそぼう！ おりがみあそび お部屋にも飾ろう
8:15	<ul style="list-style-type: none"> ○花壇や菊子菜園の水やりをする。 ○朝の集まりに参加する。 ○手遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆幼児と一緒に歌った遊びや盛り上げ、楽しい雰囲気の中で触れ合い遊びができるようにする。 ☆遊びを進める中で、幼児同士が自分の思いを出してききた時は必要に応じて仲立ちをし、共に遊ぶ楽しさを味わえるようにしていく。 ◎クラスの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●夏の季節の花の美しさや生き物（せみ・くわがた）の生態に興味をもってかかわってほしい。 ☆園庭に咲くあきあきがおやせみの鳴き声や聞き、生き物の興味をもって関わられるように提示したりする。
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○手遊びをする。 （おきなわおもしろいも、あきあきおこりゃ） ○絵本を見る。（ぐるぐるせんたく） ・触れ合い遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎遊びに使うお面や手ぬぐいを自分たちで準備できるように、わがたりやすい表示をしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
10:05	<ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれて遊ぶ。 （教えてあげられるために） ・楽しさが伝わるように 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
10:20	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の振り返りをする。 ・感想などみんなであそび合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で好きな遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
11:15	<ul style="list-style-type: none"> ○片付けをする。着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ○給食の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・給食をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
12:20	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けをし掃除をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
13:30	<ul style="list-style-type: none"> ○帰りの集まりに参加する。 ・今日の出来事について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。
14:00	<ul style="list-style-type: none"> ○帰園する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループの全体での動きのある遊びが十分できるように場を整える。 ☆遊びに入っていけない子に対しては見守り、声かけをしながらみんなと一緒に楽しんで感じられるようにしていく。 ☆楽しかったこと考えたことなどの伝えたい気持ちに共感し、必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。 ☆他の幼児が気づいたことや考えたことなどを伝えることで遊ぼうへの遊び（交流会）への意欲をもてるようにする。（ゆっくり・やさしく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども達だけの遊びの中で触れ合いやかわりかきもできるように。 ☆◎状況を見て教師も一緒に遊んだり、ルールを確認したりしながら自分たちで遊びが行えるように見守る。場を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなであそびたり触れ合ったりしながら自分の遊びになるように。 ◎何度も繰り返して遊べるようにCDを用意し、歌詞も確認しておく。



☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。

☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。

☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。

☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。




☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。

☆子ども達の思いをつくイメージを形にした時の喜びが味わえるようにしっかりと受け止める。

◎イメージしたものが作れるよう用具や空き箱などを用意しておく。

(2) 検証の流れ

月日	検証のねらい	幼児の姿	○環境構成 ★教師の援助 ※太字は前回の改善点	わらべうたや手遊びうた 表現に関すること
7月14日(金) 本時	<p>・友達とわらべうたや手遊びをして遊ぶ。</p> <p>・「交流会」に向けて、自分らしく表現して遊ぶ。</p>	<p>・教師や友達と表現遊びを楽しむ。 (あさがおこりゃこりゃ) 手遊び</p>  <p>(ぐるぐるせんたく) 表現遊び</p> <p>・わらべうたを通して友達とつながることを楽しむ。 (ぐるぐるあんまー) (な～みな～み) (ふ～ゆべまー) (赤田首里殿内)</p> <p>わらべうた</p>  <p>・「交流会」に向けて表現を工夫しながら遊ぶ。</p> <p>・友達と仲良く遊ぶ中で、感じたことを言葉にしたり、伝えたりする。</p> 	<p>○★ “ぐるぐる”がキーワードとなる絵本を読み、身体が動き出しやすいように声をかける。(イメージが膨らむように) ★教師も遊びに参加し楽しさに共感する。 (遊びの援助者)</p> <p>★自分らしく表現しているところを認め具体的な言葉で褒める。</p> <p>○「ぐるぐるアンマー」の遊びでボールからロープを持つことにする。</p> <p>本検証前</p>  <p>ボールの先頭に意識がいき、だれがスキップしたらいいのかわかりにくかった。</p> <p>(環境の再構成)</p>  <p>カラーロープは色がついていて、手で握るので自分の番がわかりやすくなった。</p> <p>★楽しかったこと、うれしかったことをみんなで伝えあえるよう教師は笑顔で向きあう。 (幼児のよき理解者)</p>	<p>風がふいてきたよ</p>  <p>◎絵本「ぐるぐるせんたく」</p> <p>・“ぐるぐるアンマー”ではこれまで自分達で話し合い、遊びをつくり出してきた。 (名前の変更) 「まわせまわせ」 ↓ 「ぐるぐるアンマー」</p> <p>※カラーロープ</p>  <p>おしえてあげる!</p> 
考察	<p>① 触れ合い遊び「ぐるぐるせんたく」では動きを引き出す言葉“ぐるぐる”から、イメージを豊かに身体を動かす姿が見られた。このことは教師自身が共に遊び共感する姿勢があったからだと考える。</p> <p>② つながる遊び「ぐるぐるアンマー」が楽しく続いたのは、これまで子ども達と一緒に遊び方を考え、楽しくなるように遊びが変化してきた過程があったからだと考える。</p> <p>③ わらべうたの音色に合わせて同じロープをまわす→同じ色のロープを握る友達と一緒にスキップするなどの遊びを通して、友達がいる嬉しさを味わっている様子が見られた。</p> <p>④ わらべうた遊びを教える時に、相手の目を見て教える姿が見られた。</p> <p>⑤ ペア同士で向きあうことで一緒にできる嬉しさを味わう姿が見られたが、徐々にペアの変更をしたがったり、遊びを変えたりする姿も見られた。</p> <p>⑥ 振り返りの時間では楽しかった遊びに対して思いを交換し合ったが、色々な遊びでの感想が聞こえなかった。</p>			
改善点	<p>⑤ ペアやグループの変更の理由を丁寧に探り、子どもの心の変化(成長・葛藤)に寄り添って援助していく。</p> <p>⑥ 教師が発問の工夫(子ども達の姿から見える成長や頑張りを捉えた話題)をし、明日の子ども達の遊びの意欲につながるようにする。</p>			

5 幼児の変容

わらべうたや手遊びうたを通した保育実践を重ねる中で、友達とのつながりにおいて、一緒に遊ぶことを楽しみに感じる姿が見られるようになってきた。また、わらべうたの心地良い音色と言葉に心が満たされ繰り返し遊ぶようになり、次第に自分らしさを発揮して遊ぶ場面が増えてきた。個々の遊びの中では、友達との遊びを通して喜びや葛藤・不安・安心感・充実感など色々な思いが交差したことで、人間関係は複雑化したが、これらのことも成長の一過程であると捉える。

また、**資料1・2**のアンケート結果から、家庭での遊びの様子の変化が伺える。**資料1**の「子どもと一緒にわらべうたや手遊びうたで遊んだりしますか？」の問いに対し、検証前は「よく遊ぶ」・「遊ぶ」と答えた保護者は27%。「あまり遊ばない」・「遊ばない」と答えた保護者は73%であった。検証後は、「よく遊ぶ」・「遊ぶ」が50%となり23%上昇した。また**資料2**「子ども達からわらべうたや手遊びうたに誘われますか？」の問いに対し、検証前は「よく誘われる」・「誘われる」と答えた保護者は19%に対し、検証後は、62%になり、43%上昇した。この結果は、幼児が幼稚園での遊びの続きを家庭でもしたいと感じていることが伺える。さらに、保護者アンケートの自由記載の欄に子ども達の家庭での変容や親子で遊ぶ機会が増えた姿が見られる。

(資料3)

以上の結果や変容から、家庭でも簡単に、わらべうたや手遊びうたに親しめることが分かり、わらべうたや手遊びうたは、「道具がいらない」「幼児が身体や心地よい音色として覚えているので親に伝えやすい」「簡単な遊びなので保護者もかかわりやすい」という良さがあることが再認識できた。さらに、親子の触れ合いが増えると、幼児が園での様子を伝えたりする機会も増え、幼稚園と家庭において幼児が仲立ちとなりつながることで楽しさが共有でき、幼児の表現する意欲が高まったと考える。

資料3 (保護者アンケート自由記載欄)

わらべ歌や手遊びうたなどの遊びを通して、お子様の様子や家族の様子など何か気づいたことがあれば教えてください。

{ わらべ歌や手遊びを習っていると、とても楽しそうに話してくれたり、一緒に話しながら、園での様子が見られたように、下の取柄が少し減りました。 }

(恥ずかしがりやが少し直った気がします。)

⑥ わらべ歌や手遊びうたなどの遊びを通して、お子様の様子や家族の様子など何か気づいたことがあれば教えてください。

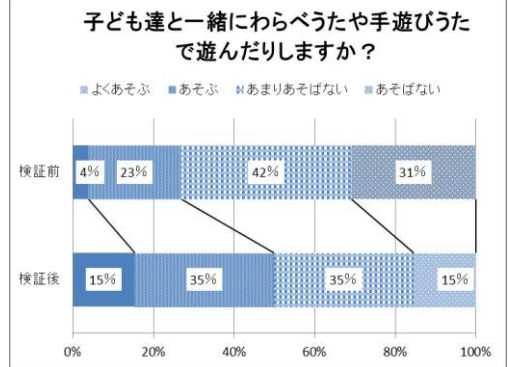
{ 幼稚園で覚えてきた手遊びを一生懸命教えてくれる娘の姿を見て、人前で表現する自信がついている気がします。 }

(人前で表現する自信がついている気がします。)

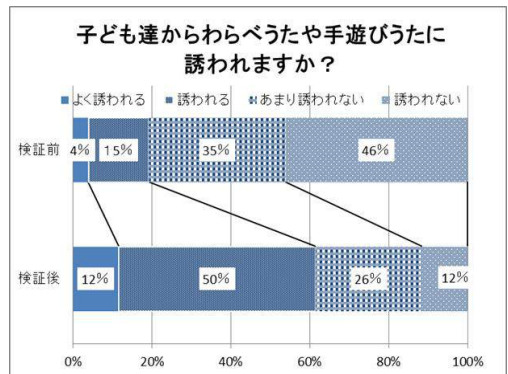
わらべ歌や手遊びうたなどの遊びを通して、お子様の様子や家族の様子など何か気づいたことがあれば教えてください。

{ 手遊びうた、とても楽しそうに毎日覚えてくれました。毎日10分、10分をふせして夏休みには毎日練習させてあげたいと思います。 }

(とても楽しそうに毎日覚えてくれました。)



資料1 (保護者アンケート結果より)



資料2 (保護者アンケート結果より)

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) わらべうたや手遊びうたを通して心がつながり、相手の目を見て自分の気持ちを伝えられるようになってきた。
- (2) 幼児は、わらべうたや手遊びうたに親しむことで、教師や友達との心をつなぐを深めることができ、自分も友達も大切な存在であることに気がつくようになった。
- (3) わらべうたや手遊びうたを通して、温もりを感じ、安心して自己を発揮していく姿が見られるようになった。
- (4) 幼児の実態、教師の願いに合わせて遊びの再構成を繰り返していくことで、子ども達が自分らしく表現するようになった。
- (5) 幼児にとっての表現する意欲は、動きを引き出す言葉や絵本によってイメージが広がりやすくなることが分かった。
- (6) 教師の援助として、動きの質をとらえて遊びを工夫することで幼児が表現しやすい環境が生まれることが分かった。

2 今後の課題

- (1) 教師は幼児が自己発揮していくために大切な人的環境であること再認識し、子どもの心に寄り添い幼児期の心の変化（成長・葛藤）を丁寧によみとり援助していけるよう資質向上に努めていきたい。
- (2) 幼児が継続的にわらべうたに親しみ、さらに自分らしく表現する楽しさを味わえるようにしていきたい。
- (3) 教師自身がわらべうたに興味を持ち、わらべうたのもつ背景や環境・人々の思いを勉強し、子ども達に遊びを通して伝えていきたい。
- (4) 家庭や地域との連携をとりながら、わらべうたのある保育を伝え、家庭でもわらべうたを楽しめるようにしていきたい。

〈使用した絵本〉

三浦太郎 著	『くっついた』	こぐま社	2016年
矢野アケミ 著	『ぐるぐるせんたく』	アリス館	2017年

〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
文部科学省	『幼稚園教育要領』〈平成29年告示〉	フレーベル館	2017年
高江洲義寛 著	『沖縄のわらべうた』	沖縄文化社	2012年
高野牧子 著	『うきうきわくわく身体表現あそび』	同文書院	2015年
平尾時栄	『わらべ歌のもたらす7つのメリット』		2016年

